

会員数(56・2現在)

逗子地区 155名

葉山地区 243名

大船地区 64名

合計 462名

吟道月報

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

56・2月

第103号

発行 者
根 岸 岳 萃
綿 集
中 村 愛 岳
杉 山 雪 風

「人生、坂に車を押すが如し」

堀内支部口組 小 形 雄 山

ことわざで「親の意見とナスビの花は、千に一つの無駄もない」という言葉があるが、私の父親は事あるたびに「ことわざ」や「格言」をイラスト入りで半紙に書き勉強机の前に貼り出してはこの意味を説明してくれたものです。その中で私が今でも一番の教訓的名句だと思っっているものは、「人生は坂に車を押すが如し、油断をすると元に戻るぞ」という言葉です。

私は警察畑を三十年近く歩き続けていますが、何度が人生の車が坂道のスタートに押レ戻され、派々と父親の言葉を味わい、その都度一から出直そうと心に誓っては人生の坂道を登り始めたものです。

ところで私が吟道に入ったのは葉山警察署に在勤中の48年6月に三井雲岳先生、守谷宗風先生、鈴木孝風先生の御指導で、自己啓発のために葉山警察署支部を結成、毎週土曜日に署の道場で練習を続けました。其の時守谷先生は「自分の為ですから頑張ってやりなさいよ」と言われ、ままた、レカレその後転勤となり、勤務の都合上、予定通りの練習ができなくなり中断しておりましたが、舞をやっていた事もあって、中村愛岳先生の御好意で、練習日を都合つけていただき吟、舞共々御指導を受けることになりました。

レカレその間の二年間は全くといってよい程練習をしていなかったの

でーから出直しの状態でした。そして其の時程一つの事を継続してゆく事のむずかしさをつくづく感じた事はありませんでした。「一日休んだら元に戻るには一週間かかる。でも一日たった五分間でも休まず続けたら決して口にはならなはい」という言葉を或る人から聞いた時なるほどと思った。当然の事ながら中断しただけ昇段も遅れてしまった。

ところで私の仕事は皆さんの日常の安全と平穩を維持するため、姿無きに見、声無きに働きながら昼夜を分たぬ活動によって犯罪の発生を少しでも少なくし、又一件でも多くの犯罪を検挙することを指導教養しております。家庭に皆さんも犯罪の被害者にならぬようにならねと油断からせつかくの財産を失なう事のないようお願いしたいものです。

◎秋の全国吟道大会参加吟行会について

とき。五十六年10月17・18・19日(三泊三日)ところ。伊勢宇治山田

会費。五二、〇〇〇円 申込切2月28日

◎春季審査会のお知らせ 許証部

とき。三月二十二日(日) 十時より

ところ。逗子図書館ホール

- 三ヶ所にて十時に同時スタートしますのて各自の受付票により番号を確認おくれぬ様
- 受付票には必ず全項目記入して下さい。
- 初伝、中伝、奥伝を受けられる方は希望雅号を必ず記入して下さい。
- 査定料(五百円)改正 支部毎にまとの審査
- 当日に許証部中村迄。
- 許証料(550円)月号記載)は支部毎にまとの、四月五日迄に許証部中村迄。

◎がんばって

当会に左記三名の方が80文をこえ、元気に吟道に精進していられます。

岩見声風(二色C支部) 明治31年7月23日生

蟹山祐山(上岩支部) 33年2月27日生

高梨善風(堀内支部) 34年2月10日生

滝の坂教室のこと

支部長

宮寺康山

机上の電話がけたたましく鳴りました。旧
暦二十一日午前十一時、電話の主上村象風さ
んの声は滝の坂教室と私に「晴天の霹靂」
万雷一時に落つ」というよりも鼓動の止った
衝激の一瞬でした。「先程佐久間先生が亡く
なされました」

悲しく其の日が終り翌夜の仮通夜はお願い
して支部のお別れの御通夜にさせて頂きまし
た。途中で退会した吟友もほと集り御遺体の
前で弟子一同追悼の吟を捧げました。お別れ
のあいさつも平歌の合吟も頬を流れる涙と嗚
咽で声に在りませんでした。私達は心から
のお別れをさせて頂きました。そして五年余
のこの教室もこの先どうなるのか、解散もあ
り得る事と心に決めておりました。

しかしこの教室の事を心配していたのは私
よりも一生一度の悲嘆の底におられる奥さん
であったのです。習日式場の堀内会館へ出棺

同際に松井岳洋先生と根岸会長先生の御訪問
を受け、岳洋先生から壺前に「皆伝溪岳」の
許証と哀悼の吟を捧げられました。

そのあとで奥様は根岸会長に「上村を指導
者としてこの教室を存続させて頂きたい」と
私は驚きました。とても嬉しな事ですが御主
人を亡くされた直後にこんなには私共の事を
心配して下されたのだと亡き先生と松
井先生の前で亡くなられてわずか三日目に、
こんな事になったのは、故先生の温かいお導
きと、会長先生の御厚情、奥様の深い御愛情
によるものと一同感激してゐる次才です。
おかげ様で悲しみの中にも初吟会の御壺前
で新らしく手を取りあい、仲よく吟道に励む事
を誓ひ合いました。
碩心会の諸先生、先輩の皆々様、今後も変
りなく御指導、御厚誼の程、この紙上を借り
お願い申し上げます。
惜命ひくみちと、言の葉を霜の声、爽風
通夜の灯に透きて、一輪帰りに花、康山

願心△の比呂様へ御礼

佐久間爽風

病院の窓から見える大楠連山が、晩秋の影を一層濃くした頃のこととございました。

眠れないうちにおりました主人の溪風が「平家物語」を吟じてくれと申しました。夜半の病室ではと、ためらう私に「小声でよいから」と頼むので「祇園精舎の鐘の声〜諸行無常の響きあり〜」一曲終ると更に「荒城月夜の曲」と乞われ「栄枯盛衰は一場の夢」詩の意味を考えると涙があふれ、声がつまるのを悟られまいとすれば詩が汲ばず、吟が途切れると主人は好きだった詩を、先へ先へと啖々終章の「哀愁切々当年を憶ふ」まで唱えるのでございました。

五十五年七月入院致しましてからは、詩吟のテープをイヤホンで聞き楽しんでおりました。先生方の吟や折にふれて録音したお友達達の吟、また滝の坂教室のけいこ風景など、吟は病む溪風に大きな慰めでございました。

溪風の生涯はいつも積極的に自分の信ずる

ところによって行動し、多岐の日々でしたがまた人生を最高に豊かに楽しみ、多くの方々とそれを共にすること常にながけておりました。ことに晩年は詩吟を愛し「滝の坂教室」を設け、よいお弟子に恵まれたことも倖せてございました。

松井岳洋先生の御奔走により「皆伝溪岳」が贈られましたことは、予期せぬことで尚ありがたはこととございました。

通夜並びに葬送に際し「哀悼吟」で送っていただくことをお願いしましたところ、根岸会長先生がお聞き入れ下さり、多くの吟友の方々の合吟で「弔歌と追悼の詞」を賜り故人も冥々すらかのことに存じます。

生前中の御交誼に深く感謝し、また入院中皆様からいただいたきまされた励ましも、御好意のかずかず身に沁みてうれしく思いました。

七七忌を迎え紙上をお借りして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

碩心会56年初吟会会計報告書

56・1・11於 京急逗子ビーチセンター

収入の部			支出の部		
摘要	金額	備考	摘要	金額	備考
会費	666,900	2700×247	ビーチセンター会場費	150,000	管切料
祝儀	22,000	4名分	飲物持込料	37,000	
寄附金	38,300	準師範以上25名	従業員チップ	3,000	
雑収入	5,165	空ボックス売却代	弁当	98,800	1200×249
合計	732,365		つまみ	75,000	300×250
御祝儀及御寄附頂いた方、下記の通り			みかん	15,000	30×500
			ビール	35,000	7%
			飲清酒1化ン	3,200	2本
			1化ン	48,070	253本
			物シューズ	17,180	10%+13本
			紙コップ	500	50×100
			景品代	4,000	ティッシュ200本
			先生に車代	6,000	2名
			会議費	3,520	打合せ2回
			コピー代	6,840	
			消耗品代	2,320	
			通信費	1,250	
			本部会計操入	26,185	
			計	732,365	
			松井岳洋先生	中村幸岳先生	佐藤湧風
石渡岳道	竹石憲岳	石渡桂風			
小林紫舟	千葉劔岳	芝瀬翔風			
根岸岳幸	千葉香岳	村田静風			
加藤秀岳	中村愛岳	渡辺誠風			
三井雲岳	鈴木洋風	石津祥風			
沼田光岳	糸谷宗風	白井秀風			
下篠亮岳	秋元梁風	金指萌風			
井沢潮岳	鈴木萃風	鈴木堂風			
小峰崧岳	森田曉風	堀内矢野商店様			
加藤圭岳	杉山雪風	吉田屋			

以上の通り報告致します

56・1・20

担当支部代表

企画部長

堀内支部 加藤橋風 ⑩ 元町支部 矢島青山 ⑩ 千葉香岳 ⑩
 風早 石川豊風 ⑩ 木の下 松尾秀山 ⑩

碩心とは……



冬来りなば春遠からじ……私はこの言葉が大好きです。日本海側を中心に昨年暮から一月にかけて猛威を奮った豪雪もどうやら峠を越え、気象庁から春近しと嬉しむ便りがとどきました。

さて碩心会も来年は二十五周年を迎え、希望にもえています。ところで碩心会という会名の碩心とは……漢和辞典をひらきますと、「碩」とは、大きい、盛んなという意味が書かれています。(碩人)……すぐれた人物、大人(碩言)……立派な言葉、(碩学)……字句が広い(碩量)……立派な人物、器量が大きい、等の例句があります。そこで(碩心)……とは、皆様意味がおわかりいただけたと思えます。この様な立派な会名をつけて下さった松井先生に心から敬服すると共に、各人が団結して名実共に碩心会ならんと努力したいものです。(愛媛)

(訂正)

一月月号報前野君江一色Bよりを下山よりに

(入)

(堀内支部D) 小峰悠山(再) 葉山町堀内 九一〇

(電) 〇四六八一七五―〇六四五

() 赤池菊江 〇一色 一一九〇―

(電) 〇四六八一七五―一ニ八五

() 飯田筋子 逗子市桜山五―二―十

(電) 〇四六八一七三―〇八六七

(堀内支部B) 窪田 郁 葉山町堀内 九九二

(電) 〇四六八一七五―〇一三二

(滝の坂支部) 鈴木達雄 〇一色 九五九

(電) 〇四六八一七五―二六一四

() 鈴木巳佐子 〇一色 一四八三―

(電) 〇四六八一七五―七五―二

() 西山未子 〇一色 三二二―

(電) 〇四六八一七五―八九二―三

(退)

229 鈴木アサ 321 初瀬良江 322 市川八重 323 杉沢みち子

324 石川法子 325 菅根光子 482 若林忠晴